

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 29 年 4 月 6 日 (2017.4.6)

【公開番号】特開 2016-209624 (P2016-209624A)
 【公開日】平成 28 年 12 月 15 日 (2016.12.15)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-068
 【出願番号】特願 2016-148243 (P2016-148243)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 1/00 (2006.01)

G 0 2 B 23/24 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 1/00 3 2 0 C

G 0 2 B 23/24 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 29 年 3 月 6 日 (2017.3.6)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

内視鏡システムであって、

内径を有する器具チャンネルを備える内視鏡と、

カテーテルおよび少なくとも 1 つのバルーンを備える、膨張 / 収縮可能なバルーンアッセンブリを具備する固定アッセンブリとを具備し、収縮する場合には、収縮したバルーン軸に沿った第 1 の方向に配置可能になり、および、膨張することによって、前記収縮したバルーン軸に対して傾いた、膨張したバルーン軸に沿った、第 2 の非対称形状方向に配置可能になる、内視鏡システム。

【請求項 2】

請求項 1 記載の内視鏡システムにおいて、

前記膨張 / 収縮可能なバルーンアッセンブリは、前記器具チャンネルの中を通過できるほど十分に小さい断面サイズに収縮できる、内視鏡システム。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 記載の内視鏡システムにおいて、

前記器具チャンネルは、5 mm を超えない内径を有する、内視鏡システム。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の内視鏡システムにおいて、

前記膨張 / 収縮可能なバルーンアッセンブリは、断面寸法が少なくとも 60 mm に膨張できる、内視鏡システム。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれか一項記載の内視鏡システムにおいて、

前記少なくとも 1 つのバルーンは、実質的に延伸することなく膨張でき、前記器具チャンネルの内径よりも、少なくとも 1.3 倍の直径を有し、患者の身体部分内の部位に固定できるほど、十分に大きい寸法を有する、内視鏡システム。

【請求項 6】

内径を有する器具チャンネルを備える内視鏡を具備する、内視鏡システムと共に使用するための固定アッセンブリであって、

膨張／収縮可能なバルーンアッセンブリを備え、前記膨張／収縮可能なバルーンアッセンブリはカテーテルおよび少なくとも１つのバルーンを備え、収縮する場合には、収縮したバルーン軸に沿った第１の方向に配置可能になり、および、膨張することによって、前記収縮したバルーン軸に対して傾いた、膨張したバルーン軸に沿った、第２の非対称形状方向に配置可能になる、固定アッセンブリ。

【請求項 ７】

請求項 ６記載の固定アッセンブリにおいて、

前記膨張／収縮可能なバルーンアッセンブリは、前記器具チャンネルの中を通過できるほど十分に小さい断面サイズに収縮できる、固定アッセンブリ。

【請求項 ８】

請求項 ６または ７記載の固定アッセンブリにおいて、

前記器具チャンネルは、５ mmを超えない内径を有する、固定アッセンブリ。

【請求項 ９】

請求項 ６乃至 ８のいずれか一項記載の固定アッセンブリにおいて、

前記膨張／収縮可能なバルーンアッセンブリは、断面寸法が少なくとも ６０ mmに膨張できる、固定アッセンブリ。

【請求項 １０】

請求項 ６乃至 ９のいずれか一項記載の固定アッセンブリにおいて、

前記少なくとも１つのバルーンは、実質的に延伸することなく膨張でき、前記器具チャンネルの内径よりも、少なくとも１３倍の直径を有し、患者の身体部分内の部位に固定できるほど、十分に大きい寸法を有する、固定アッセンブリ。